岩手大学　生徒指導論

2001年12月

担当　吉田　章宏

この４日間の授業では、以下の内容を、参加者で共有した。

１）これまでの２年間の授業の経緯の概略。

２）参加者それぞれの自己紹介、研究テーマなど。

３）『多様性を通じての統一性』を資料として、吉田の自己紹介。

４）広島県太田小学校　合唱のＣＤを聴き、学校教育について、考える。

５）『赤ちゃんの誕生体験』を手掛かりにして、他者を理解する事、また、他者理解について考えた。

６）現象学的心理学から『五歳児の心変わり』を手掛かりにして、人間の経験について、また、その一つの理解の在り方について、学び、考えた。

７）啄木の短歌『ふるさとのなまり・・・』の授業記録とその解明を手掛かりに、以下を考えた。

吉田における、以下の三者の関連と統合についての、話を通して、心理学の研究について考える。現象学的精神病理学、授業研究、そして、文学と文学研究（例えば、漱石の『文学論』）。寺田寅彦『柿種』の「無題」、穴のこと。ガダマーの言う「教養」のこと。キューブラ・ロスのさまざまな逸話と他者理解（例えば、末期ガン患者の理解）。

８）藤田『兎の眼』の解明を通して、教師における子ども理解について。

９）西郷竹彦ＶＴＲ『虚構化と現実化』を視聴して、「虚構」の重要性を学ぶ。

１０）吉田の「虚構の重要性」の自覚化の逸話を聴く。

１１）吉田『ゆりかごに学ぶ』の「何故の問い」と「何の問い」を学び、他者の世界への理解の在り方を考える。

１２）『被害者体験の現象学的心理学』を学び、現象学的心理学の基本的方法の概略を知る。

ジャネの「心理学者は何でも屋である」との言葉を知る。

コレージィの「現象学的心理学の諸方法」の整理を概観する。

１３）ボーヴォワールの『老い』から、その変容としての「子ども」について、「不在態としての子ども」の考え方を学ぶ。

１４）田端氏の『カシタンカ授業の解明』に学ぶ。「世界」の考え方。

１５）生越氏の『登校拒否児の世界の解明』に学ぶ。

１６）幸田文の『秋の電話』の文について、考える。

課題

１）あなたが、この授業で学んだことは何であったか。授業に参加する以前の自分と、授業後の自分との間に生じた違いは何かについて、具体的に述べなさい。

２）授業で学んだ人間理解の在り方を生かして、幸田文『秋の電話』の「私」と「おじいさん」との電話のやりとりに読み取れる、それぞれの生きる世界について、あなたにできる限り、豊かに考察しなさい。

提出場所：菅原正和　研究室

提出日時：２００２年１月３１日（木曜日）